

第4学年 道徳学習指導案

平成29年度6月20日（火）第5校時

1 主題名 やさしく親切に 内容項目 【B 親切、思いやり】

2 ねらい 相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。
教材名 「心の信号機」（出典：「みんなのどうとく4年」 学研）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校3学年及び4学年における【B 親切、思いやり】の指導の観点は、「相手のことを思いやり、進んで親切にすること」である。

思いやりの心とは、相手の気持ちを推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを向けようとする心である。それは、自分がしてきたこと、読書をして感じてきたこと、人の話を聞いたことなどの体験をもとにしていることが多い。この思いやりの心を持ち、進んで親切にしようとする気持ちは、よりよい人間関係を築く基盤となるものである。

しかし、自分のことだけを考えたり、自分の思いだけを主張したりしては、よりよい人間関係を構築することはできない。お互いが相手に対して思いやりの心をもって接するようにすることが不可欠である。思いやりの心を持ち、親切にすることとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることであり、どこまでも相手に寄り添おうとする気持ちが根底になければならない。

相手の置かれている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像することによって相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるような心情をはぐくんでいきたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、親切、思いやりの心をもっている児童が多い。しかしながら、その親切、思いやりの行為について、落とした鉛筆や消しゴムを拾うこと、保健室に一緒に行きあげることなどの些細な行為をやさしさと捉えている児童が多く、相手の立場を深く考えた上での行動とはなっていない。また、外国籍の児童や支援が必要な児童が在籍する中で、その児童の手伝いを進んで何でも行うことが本当に相手の立場に立ったやさしく親切な行為なのか、疑問に思う点もある。このことは、他の児童の考え方や感じ方が自分の考え方や感じ方と同様であるであると思ひ込み、手伝えることを全ての友だちが求めていると決め付けているからだと考えられる。さらに、何でもできる児童がやってあげたり、教えてあげたりすることが多くなる中で、親切な行為を人任せにしてしまっている傾向も見受けられる。

そこで、相手に対しての思いやりの心、親切な行為とはどのようなものなのか考えさせ、一度立ち止まり、友だちが何を求めているのか自ら進んで考え、自分なりにできることを判断し、行動しようとする態度を育て、新しい気づきとなるようにしていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材では、「ぼく」が、お母さんからおつかいを頼まれ、横断歩道まで行ったところで、信号機につかまる目の不自由らしい男の人に出会う。その時に自分が取れる行動を心の中の自分に問いかけ、葛藤する話である。

展開では、主に次の点を中心に話し合うことにする。

- ① 三度も信号が変わったのにそのまま待っていた男の人をみていた「ぼく」はどう思ったか。
 〈補助発問〉・本当に助けが必要なかな。・どうして助けが必要なのかな。・本当に助けたいと思ったの。
- ② 「ぼく」がどうして声をかけようと決心できたのか。
 〈補助発問〉・ただ助ければいいのか。

この2点について話し合う際、断片的な気持ちが出されることが予想される。そこで、子どもたちの心の内を引き出すために補助発問を用意した。

この話から相手の置かれている状況を判断し、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちでいることなどを自分の気持ちのこととして想像することの大切さとともに、自分の行動につなげることの難しさや葛藤についても考えさせたい。そして、相手のことを考え、親切な行為をすることが、相手はもちろん、自分にとってもよいものであることに気づかせていきたい。

終末では、様々な友だちの気持ちを手紙として紹介する。そこから、改めて日々の生活における友だちの立場や思いに寄り添った行動について考えさせたい。そして、それらは感謝の気持ちにつながることを確認し、進んで相手に対する親切な行動をしようとする意欲を高めていきたい。

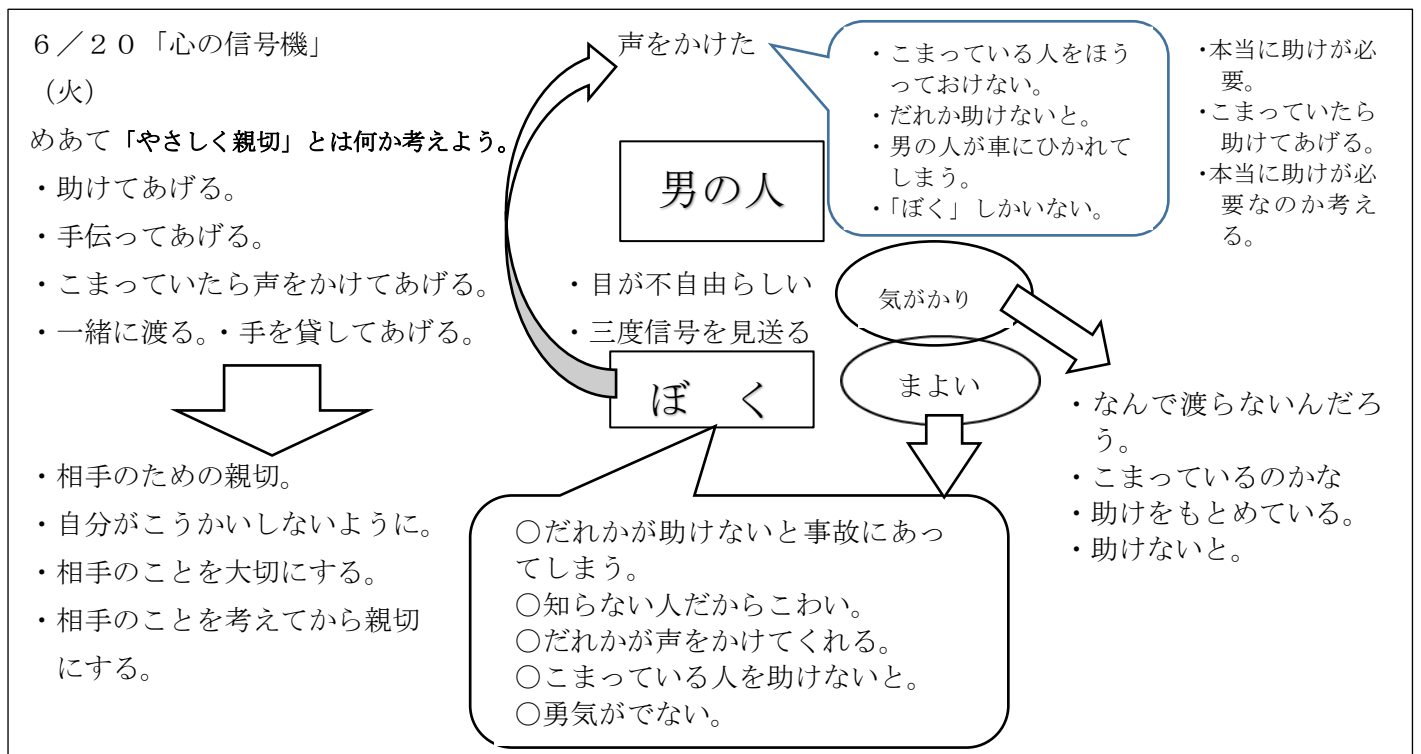
4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点★評価の観点	時間
導入	1 本時の教材名を確認する。	「心の信号機」	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の教材の「心の信号機」の状況を説明し、現時点での「やさしく親切」に対する考え方・捉え方をノートに記述させる。後の変容を見取ることに生かすとともに、ねらいとする価値について問題意識をもてるようにさせる。 ・範読をする前に条件・状況の確認をして「ぼく」がどんな行動をとるのか考えさせる。 ・条件・状況から考えた、やさしく親切とは何かについて話し合わせる。 	1分
	2 本教材「心の信号機」の条件、状況をとらえる。	登場人物：ぼく 目の不自由らしい男の人 条件・状況 おつかいに行く途中に信号機で信号につかまっている目の不自由らしい男の人を見つける。その男の人は、三度も信号を見送り、どうやら困っている。その時に「ぼく」は声をかけずに横断歩道を渡るがやはり引き返してくる。		3分
	3 「やさしく親切」とは何か考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・助けてあげる。 ・手伝ってあげる。 ・こまっていたら声をかけてあげる。 ・一緒に渡る。 ・手を貸してあげる。 		7分
	4 本時のめあてを確認する。	めあて：「やさしく親切」とは何か考えよう。		3分

<p>展 開</p>	<p>5 範読をする。</p> <p>6 教材「心の信号機」を読み、主人公の「ぼく」について話し合う。</p> <p>(1) 三度も信号が変わったのにそのまま待っていた男の人をみていた「ぼく」の気持ちはどう思ったか。</p> <p>〈補助発問〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当に助けが必要かな。 ・どうして助けが必要なのかな。 ・本当に助けたいと思ったの。 <p>(2) 「ぼく」が声をかけようと決心できたのはどうしてか。</p> <p>〈補助発問〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただ助ければいいのか。 <p>7 「やさしく親切」について話し合う。</p> <p>〈補助発問〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っていたら助けてあげることだけが親切なことなのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なんで渡らないのだろう。 ・困っているのかな。 ・助けをもとめている。 <ul style="list-style-type: none"> ・知らない人だから怖い。 ・勇気がでない。 ・誰かが声をかけてくれる。 ・困っている人を助けないと。 ・誰か助けないと事故に合ってしまう。 <ul style="list-style-type: none"> ・困っている人をほうっておけない。 ・誰か助けないと。 ・男の人が車にひかれてしまう。 ・「ぼく」しかいない。 ・本当に助けが必要。 ・困っていたら助けてあげる。 ・本当に助けが必要か考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・大変な思いや悲しんでいるときにも声をかけたり、手伝ってあげたりすることが親切だと思う。 ・相手のための親切。 ・自分がこうかいしないように。 ・相手のことを大切にする。 ・相手のことを考えてから親切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・範読を聞かせ、「ぼく」がどんな気持ちで男の人に接することができたのか考えさせ、めあてに繋げたい。 ・どうやら目の不自由な人らしいこと、信号機の辺りは、だれもいないことに着目し誰かが手を貸してあげないと信号を渡れないことに気づかせる。 ・目の不自由な人だからというだけではなく、男の人が本当に困っていて助けが必要だと感じている思いを読み取らせる。 ・男の人が困っていることを捉えさせ、自分ならどうするか考えさせる。 ・状況に応じて小グループでの話し合いの時間を設け、友だちの考え方を受け入れ自分ならこうするという時間を設ける。 ・児童がプラスの考えでなくマイナスの考え方も考えていることが発言できるように補助発問を活用する。 ・ぼくが勇気を出して、男の人に声をかけたときの気持ちについて考えさせる。 ・その時の状況を判断して知らない人でも困っていることや悲しんでいることを感じ、声をかけたり、手伝ってあげたりしようと思うことができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★学習のテーマをもとに、これまでの自己を見つめ、相手に対しての親切とは何か考えることができたか。 (ノートの記述・発言)</p> </div>	<p>20分</p>
----------------	--	--	---	------------

終 末	8 友だちからの手紙を読む。	<ul style="list-style-type: none"> 一緒にやろう。 声をかけてから手伝おう。 何が必要なのか考えてからやろう。 励ましの言葉をかけてあげよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 予めクラス全員に親切にされたことを手紙に書いてもらい、その中から発表する。 本時のテーマに戻り、振り返りを書かせる。 	10 分
	9 振り返りを書き、発表し友だちの意見を聞き深める。	<ul style="list-style-type: none"> 友だちが本当に助けが必要なのかよく考えるようにしよう。 友だちが本当に困っていることを助けてあげる。 友だちが悲しんでいるときには声をかけてあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りを発表して友だちの考えを受け入れる。 	

5 板書計画



6 評価の観点

<児童の学習状況の評価>

- 学習課題をもとに、これまでの相手に対しての親切とは何か考え、理解することができたか。
- 友達の意見を聞き、多面的・多角的に捉えることができたか。
- 相手に対する本当の親切を判断する心を養えたか。

<児童の道徳性に関わる成長の様子>

- 相手に対しての親切を考え新たな気づきとして考えられたか。

7 他の教育活動との関連

- 帰りの会の「今日のチャンピオン」として些細な親切だけではなく本当の親切を発表することができるようにする。(例えば：励ましの言葉をかけていた。：大変なことを手伝うだけではなく声をかけながら応援していた。など)
- 体育の時間では、励ましの言葉やアドバイスを発言できる場を設ける。
- 国語の時間では、「友だちを励ます言葉集」として4年生で習う言葉をノートに集めさせたり作文で使えたりする機会を作る。